



2007年(平成19年)
組合設立20周年記念号
[第16号]

発行 東京鉄構工業協同組合
〒104 東京都中央区八丁堀3-9-5 KSビル6階
-0032 TEL 03(5566)1595
FAX 03(5566)1597



設立20周年を迎えて

理事長 池田 英敏

東京鉄構工業協同組合は、本年創立20周年を迎えることができた。昭和61年4月に62社の構成員によって発足、その前身である東京鉄構工業会は昭和48年3月に設立、多くの諸先輩方のご苦勞、苦難の歴史が当組合に刻み込まれている。

ここに至るまでの構成員の努力と皆様方の暖かいご支援、ご協力の賜

物と深く感謝を申し上げたい。

一時は130数社となっていた構成員も平成5年のバブル崩壊による長期の不況のため、倒産や転廃業を余儀なくされて現在60社となっている。現在、日本経済はいざなぎ景気を越える状況下にあるが、实体经济は決して楽観できるものではなく、肌で感じる事が出来ないと言っても過

言ではないと思う。

私達60社は、それぞれの英知と情熱と努力によって心を合わせ、この厳しい不透明な経済情勢の中を安全で安心の製品を社会に提供すべき使命を持っている。平成17年に開講した東構塾による技術の伝承も若手後継者に着々と受け継がれている。組合理念である相互扶助精神で、夢とロマンと技術力を持って未来にむかって挑戦していきたいと思う。今後ともなお一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(池田鉄工社長)

組合理事役員 年頭の挨拶



副理事長
総務・共済委員長
松田 清明

「美しい日本人のころ」

新年明けましておめでとうございます。本年もどうかよろしくお願ひ申し上げます。さて、新年早々ではあるが、昨年を回想してみると実に殺伐とした、そして嘆かわしいニュースに追われっぱなし。今年こそは良いニュース、明るいニュースで溢れるといいですね。

安倍総理大臣が「美しい日本」をキャッチフレーズにとりあげて種々の改革を実行しようとしている。大賛成である。

そして「美しい日本人のころ」を一番大事にしてゆきたいと思う。教育改革・行財政改革・年金改革・地方自治改革または防衛省格上げ・再チャレンジ支援制度等、今手をつけ、あるいは前進していかなければならない難問が山積している。ただ、改革に終わりはないし、完全無欠なものなどありはしないのだから、一歩一歩進めていけば良いではないか。

どこかの政党が昔の社会党のように、なんでも「反対」を押し通しているが、民主主義の何たるかをご存じないのだろう。まあ社会党の残党が大勢混じっているようでは、国の根幹の政策決定に統一した意思など出せやしないだろうし、政権担当能

力などあるはずもない。改革には痛みがつきもの。

それぞれ関わりを持つものの中には不利益を被るものが出てくるのはやむをえない、それでもその改革が公正で国民大多数の意思であるならば我慢をして従わなければならない。それが民主主義だろう。あまりエゴを押し通さない、それが昔ながらの日本人の良いところであったのではないか。

昨年まで数年間、高等学校で社会科や理科や国語の一部で未履修の生徒がたくさん出て問題になった。大学受験には必要ないので、それらの教科をカットしてしまったという話だ。

高等学校の予備校化を言われているが、それ以前に礼節のかけらも無い、必要な常識さえも備えていない、誇るべき自国の歴史を語ることができない若者が、大量に大学を出て社会に排出されることが恐ろしい。

教師達よ、良く考えてください。大学受験にしたって、傾向と対策だけを学習したって密度の濃い勉強などできるはずが無い。

子供たちに教えることは誰がなんと言おうが、一に倫理・道徳、二に年齢に応じて必要な常識、三に日本国民としての誇りであるその歴史、その後で専門的な知識でなければならない。

これが美しい日本人のころを取り戻す道ではないか。斯く言う自分も十分にそうしてきたとは言えませんがね。

新年早々世相に対して不満を言うようでは、私も年かな。

(松田鋼業社長)



副理事長
経営近代化委員長
武田 忠義

首都圏に工場のあるメリット

今年は猪の年。一直線に参りたいと思うが、なかなかそうもいかない。直球も変化球も必要となるだろう。

われわれファブ業界も今まで幾多の苦難を乗り越え現在がある訳だが、今年は今までと違った苦難がある感じを持っている。仕事量はバブル並みに繁忙を極めている仲間がいる一方で、受注残が極端に少ない仲間と2極化も進んでいる、そんな感じがする。繁忙を極めている仲間も利益に結びつかない低価格に苦慮しているのが現状ではないか。

建設業界のパイの縮小、その他諸々の問題が複雑に絡み合い受注競争は激化の一途を辿っているのが現状である。一方、海外からの参入も今までのタイに加えて中国からの参入も現実には始まる。とくに中国ファブの潜在能力は非常に大きなものがあり、年間10万トン・20万トンのファブが多数ある。この内の数社が海外に眼を向けるようになった場合、われわれ業界も大きな影響を受けることになる。とくにトップ企業から影響を受ける形になるのではないか。いずれ近い時期に動きが始まることになるかと予想する。われわれも今までの発想を変え、みんなで渡れば恐くないから一人で渡ってリスクをとる発想が必要ではないか。

東構協の会員各位には、大型市場の首都圏に工場があることをメリッ

トに致す考えを持っていただき、特徴のある会社・工場の構築を望まれることを願っている。

(叶産業取締役相談役)



副理事長
Mグレード部会長
池谷 春夫

全国Mグレード部会について

昨年2月に全国Mグレード部会連絡協議会を設立、9月には総会を開催し、さらに11月には当組合のMグレード部会の工場見学に相乗りするかたちで、隣県交流会を実施した。

これらの活動を振り返り、常に思うことは、会合そのものが自社の商売や技術に大きく影響する話題がメインとなり、最新情報のほか、建前や形式でない本音の意見が飛び交う場となっていることである。注意が必要なのは、仲間意識や信頼関係に基づく交流基盤がなければこうした場は、単なるガス抜きだけになってしまうことだ。そして何よりも「参加してよかった」と思って貰うことが大切だ。

設立当初から、①性能評価②耐震補強工事③山積調整の3テーマに絞った議論を展開してきたが、いずれもわれわれMグレードにとって身近な課題であり、この議題で協議すれば常に数多くの課題が浮上してくる。また、こうした議論の場において実感するのは、各自の共通課題はさほど大きく異なるということである。それも、まず相互交流で、相手を知ることから始まることを強調したい。

その意味で関東Hグレード協議会との交流を検討しているが、首都圏の仕事に分け合うネットワークができれば焦って安値受注することがなくなる。最終的には仕事量の山谷の平準化が図れることになるのでないか。こうした協調精神が全国的に拡大して、結束でファブ業界全体の経営近代化に果たす役割、自らの利益に供することは大きいと考える。全国Mグレード部会連絡協議会の活動に、これまで以上の関係者のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

(日東鉄工取締役営業本部長)



副理事長
教育・技術委員長
森 明

新しい技術は誰のもの

産学協同で新しい鉄骨構造を提案している企業がある。全構協でも先に25度開先による溶接技術の提案を構成員に行った。

日頃、このような発明にかかる利益が誰に帰属するかを考えることがある。もちろん、この権利を法律で護るために特許制度があるが、特許を取得したからとしても、必ずしもその利益が全部その発明者に帰属するとは限らない。発明が売ればその代価が得られるが、売れなければ何の利益もない。この売れるという元を糺すと、いうまでもなく、買った人にもその利益を分配していることになり、決して独り占めにはできない。世の中に発明を業として色々よい発明をして、これだけ売る人、

つまり発明家なる人もいるが、一般的に企業が行った発明はその企業が発売元となり、自社の商品として発明の利益を享受している。

この発売元になることが重要であると同時に商品が売れて買った人にも利益があることがサイクルのルールである。こうしてみるとわれわれ鉄骨加工業者がいかによい工法を発明してもこれを正当なルールで売り出し、これを買ってもらうシステムに乗せない限り、正しく評価されその利益を得ることはできない。在来の工法で受注した工事を軽減工法で施工して、その利益を得ようとすることは誰でも考えることであろうが、相手である施主や元請さらには行政庁の了解が必要であり、このことをして全部の利益を独占することはできないと思う。もちろん個々のケースでは最初の一回は思惑通りの結果を得られることもあるだろうが、やがて安くできるならその分の値下げが要求され、いつの間にか、せっかくの発明の利益が全部相手側に取られてしまう。

鉄骨加工業は専門業種として建設業界にあって、どうしても発売元となりにくい弱点があり、過去においても一生懸命行ってきた技術向上の努力が正当な評価を得るに至っていない。それどころか他人の提案した理論や技術に、むしろ正当な労力評価無しに従属を余儀なくされている。このたびの全構協の提案がせっかくの機会を逃すことなくわれわれ構成員に利益をもたらすこととなること、即ちどのようにわれわれの発明を売ることができるかが問われている。

(日本鉄構建設工業会長)



副理事長
耐震補強委員長
飯田 歳樹

天職に誇りを持つ

創立20周年の記念すべき新春を迎え、心よりお祝い申し上げます。

20年と言うと、人間では成人として社会から認められ、自分の行動に責任を持たなければならないと認識されている。

鉄骨ファブとして、この20周年を機に振り返ってビジネスの原点を再認識し、業界の風向きを見ながら独自の経営方針を持ち、アドバンテージは自分で掴み取る意気込みで今年を始動したい。

それには鉄骨専門業者としての誇りと技術を持ち、ゼネコンや物件を選別できる基礎体力をつける事だと思ふ。

平成6年度の東構協組合員数は130社だったが、平成19年度の現在においては60社しか残っておらず、この12年で70社以上淘汰された現状を見ると、大変厳しい業種であることは間違いないかと思ふ。

しかし、鉄骨加工業種は決して斜陽産業ではない。まして東京は日本一のマーケットである事は確か。

開発、開拓を自社独自の発想で事業展開をすれば、必ず結果が出せる事を信じて情報の共有こそが今業界に求められていると思ふ。

今年は純粋な20歳に戻り、夢多き笑顔で、大いなる目標を持って再出発しましょう。

(飯田製作所社長)



理事
前田 昭男

「車内放送」

電車に乗ると先ず聞かされるのが携帯電話使用についての注意の放送である。すでに携帯電話で周りに迷えるような人は殆ど見受けられない事を思うと、この放送が十分効を奏していることが認められるが、依然として毎回続けられている。

多数が乗り合わせ、揺れ動く電車内は、皆がなるべく不快な思いをせずに過ごすために、乗客全員に、いろいろなマナーが求められる環境の一つである。

現実には、私どもが子供の頃から教えられて以来、常識として考えてきたマナーがいちいち例を挙げてもなく、あまり守られていないと思ふのは私だけではないだろう。

また「優先席」というものが設けられていること自体、大変異常な事だと思ふし、最近はまだ、趣旨が少し違うかもしれないが「女性専用車」なるものも登場した。何か、物悲しい気にさえなってくる。

マナー復活のために、携帯電話で効果のあった車内放送をもっともっと活用してはいかがなものだろうか。

車内でのマナー復活は人の集合する他の場所でも効果が波及し日本全体のマナー復活に寄与するのではないかと思ふ。翻って、信義に悖る行動の横行する中、我が業界のマナー復活の手は如何に。

(前田製作所社長)



理事
角鹿 茂

20周年を迎えて

東構協も設立して早や20年。大きな好況、不況も経験してきた。これらの経験を踏まえ、適切な利益を得られる鉄骨業界の構築を図っていきたいものだ。

首都圏の大型プロジェクトの本格始動や堅調な伸びを示す民間設備投資に支えられ、全国的にみても鉄骨需要は地域格差が多少あるにしてもさほど落ち込んではいない。

足元の受注環境をみると、各社とも量的な確保はでき、一部ではバブル期を彷彿させる状況になっているところもあると聞く。ところが、その需要の増加が価格に結びつかない、いわゆる「利益なき繁忙」に陥っているのが一般的なファブリケーターの実情なのではないか。単純に考えれば、需給バランス改善＝鉄骨単価の改善と繋がっていくはずだが、実際は単価に結びついていない。腰を据えた議論でこの原因を突き詰め、組合としての「答え」を導き、業界に一石を投じていこうではないか。適切な利益が出ていなくても「忙しい」この状況は、後回しにしてきた諸問題を解決するには、近年にない良い時期なのかもしれない。

東京という日本の中心で活動する組合、東構協。ここから魅力ある鉄骨業界の構築にむけ、全国に情報を発信していこう。

(角鹿鉄工社長)



理事
RJグレード部会長
杉本 豊

「目標のある夢を持とう」

東構協設立20周年おめでとうございます。また、RJ部会活動への協力、誠にありがとうございます。

この20年間、バブルの好調の時、それ以後の悲惨な長い低迷時期、経済のバブル清算も、どうにかなりつつある今日この頃、私たちの業界が取り組むべき問題は、新しい能力、若い人材の確保にあると思う。そして一番大切な事は、会社、社長をはじめ全社員が各々自分の夢なり、目標を定めてそれに向かって突き進むこと、もちろん人間一人ひとり考え方は違い、今日を楽しく生きようという人達もいるだろう。それも自分が楽しくなるには、周りの人達をもいかに楽しくするか努力が必要だ。

東構協も組合としての目標を定め、皆さん全員がそれに向かって努力をする必要があると思う。

各グレードを超えて業界全体が人の痛み苦しみを理解し、助け合える業界、これこそが真の業界の姿ではないか。時代はどんどん変わる。その時の時代にあった夢を持っていれば、その人は他人から見て輝いて見える。どんな時代でも、各自、各社の夢を持っていれば、それに向かってのパワーが湧いてくる。

皆さん、どうか一つでも二つでも小さな夢でも持って明日に向かって努力してください。

(一本木鉄工社長)



理事
井戸 弘忠

設計・工務店との「連携」を

われわれ小規模ファブを取り囲む状況は、ハウスメーカーとの競合、木造3階建ての普及、アルミ製建築金物の増加など、相変わらず厳しい状況が続いている。

ただ、私の知人の設計者で鉄を熟知した人物がいて、彼は扉・階段などで積極的にS造を選択している。その理由には、曲げ、ねじりなどの、他の素材にはない「加工性の高さ」があるようだ。つまり、S造というのは、鉄の良さを知っている人には積極的に採用される理由があるのだと思う。

また、町場の工務店に目を向けて考えてみると、社長の多くは大工出身で鉄についての知識が浅く、つい経験のある木造を選択する傾向にあると思う。

そこで、われわれの持つ、鉄工の加工や建方のノウハウを提供し、鉄骨建築を知ってもらえば選択される機会も増えるのではないかと。また、共同で消費者へ、耐震性や大空間の確保などのS造の特徴をPRし、需要そのものの掘り起こしに向け互いに手を取り合いwin-winの関係を築ければいいと思っている。

実は、私の所属する団体で構造設計や工務店との交流会は行っているのだが、この東構協でもR・Jグレード部会を中心に、草の根の活動をしていくことも良いのでは？

漠然と日々を過ごすのではなく、模索を続けながら、なんからのアイデアを見つけていきたい。

(帝都建工会長)



理事
柳本 幸治

「夢」

20年前はバブル経済の始まり、5年ひと昔と言われているが、当時とは世相がだいぶ違ってきている。

昨晚、夢を見た。30数年前に父を中心に兄弟皆で力を合わせて働いていた夢である。今とは時間的にも肉体的にも比較にならないほど、厳しい労働条件であった。しかし誰一人不平不満も無く、一生懸命働き、その合間によく遊びもした。

その努力により、夢見たファブ工場として不十分であるが機能を整えることができた。しかし、これからより一層の充実、合理化を図っていかなければと思う。

機能的には、加工ラインの合理化、ヤードの狭さ、さらに敷地の狭さ、周辺の住宅化による騒音対策等改善が必要である。人的には技術職人の高齢化、後継者等の問題がある。

当社では幸いに後継者が育ちつつあるが、若い技術職人の育成は急務である。それには魅力ある職場としなければならない。厚生、研修、労働環境の改善等は考えられるが、企業としての継続的なポリシーが必要と思われる。

機能的な改善は新たに立地条件が

整った土地に移転することが得策である。自分の元気なうちに是非実現できるように頑張りたいと思う。

新たなファブリケーターの実現の夢を追い、正夢になるようお願いつ...

(富士工業専務)



理事
中川内 伸吉

組合を仕事の相談の場に

私も理事に入れていただき、皆さんの役に立たぬまま早5年が過ぎた。

10年先の会社のことや、この業界の将来を考えることがある。今の状況として格差社会や、少子高齢、職人不足、建設不況などマイナス思考になりがち要素しか見当たらない。

果たして鉄骨ファブリケーター業界は将来的に魅力溢れる産業になり得るのか——。若い人材が目を見せながら、先を競うようにファブ各社の扉を叩くようになるのはいつになるのか——など等、ぼんやりと思いつく。

この業界の多くの方は、過去のバブル時みたいな贅沢はしないでもいい、ご飯だけ食べられればよしと言う方がおられる。僕自身もその考えだが、

この先何10年もそれでいいのだろうか。それでは寂しすぎる気がする。生活をする中で、旅行をしたい、車を持ちたい、錦糸町のクラブでお酒が飲みたい、など贅沢と思えないことでも、財布と良く相談しないと実行できない。

この業界をもっと活性化していき、魅力ある仕事に変革させたいと思う。

これを実現するため、東京の組合活動を組合員全員で提案し、行動する団体になりたいと思う。

お金は税理士、保険は労務士、仕事の相談は組合と話せる組合にしたいと思う。

(中川鉄工所社長)

地区会員名簿

東地区 (27社) 地区長 (株)飯田製作所 飯田 歳樹

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	那須ストラクチャー工業株式会社	H	10	城北工業株式会社	R	19	株式会社市川スチールエンジニアリング	R
2	株式会社飯田製作所	M	11	鈴木鉄工建設株式会社	R	20	株式会社辻工作所	J
3	中央ビルト工業株式会社	M	12	有限会社高市工業	R	21	株式会社コイワ	J
4	株式会社中込工業所	M	13	株式会社角鹿鉄工	R	22	株式会社長谷川工業	J
5	株式会社前田製作所	M	14	株式会社東洋鉄骨	R	23	熊谷工業株式会社	未
6	吉岡工業株式会社	M	15	株式会社利根川鉄工所	R	24	ヤナセ工業	未
7	株式会社谷村製作所	M	16	株式会社中川鐵工	R	25	株式会社奥村鉄構	未
8	富士工業株式会社	M	17	林鉄工株式会社	R	26	有限会社矢萩鉄工	未
9	株式会社佐久間鉄工	R	18	三進建鉄有限会社	R	27	中央鋼材株式会社	未

中地区 (12社) 地区長 (株)帝都建工 井戸 弘忠

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	池田鉄工所株式会社	M	5	株式会社鎌建工業	R	9	有限会社金谷鉄工所	R
2	日東鉄工株式会社	M	6	有限会社修和鉄工	R	10	東京建鉄株式会社	R
3	松田鋼業株式会社	M	7	株式会社帝都建工	R	11	株式会社三侖鉄工	R
4	わくた工業株式会社	M	8	井上鉄工株式会社	R	12	大伸鉄工株式会社	未

西地区 (21社) 地区長 (株)石郷岡工業 石郷岡 梅雄

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	叶産業株式会社	H	8	井戸鉄建株式会社	R	15	有限会社橋本鉄工	R
2	川岸工業株式会社	H	9	株式会社一本木鉄工	R	16	有限会社藤本鉄工所	R
3	株式会社矢嶋	H	10	株式会社酒多鉄工所	R	17	株式会社河村鉄工所	R
4	株式会社石郷岡工業	M	11	有限会社坂爪建鉄工業	R	18	株式会社栗野鉄工所	R
5	小島工業株式会社	M	12	島崎工業株式会社	R	19	近藤鉄工株式会社	未
6	日本鉄構建設工業株式会社	M	13	株式会社高水鐵工	R	20	株式会社佐々木鉄工所	未
7	有限会社天野鉄工所	R	14	有限会社中央製作所	R	21	株式会社敏鉄工	未

事業委員会報告 (平成18年)

<総務・共済委員会>

■事務局職員交替 (採用)

女性職員の退職に伴い採用した。

渡邊 富美さん

平成18年2月20日付

今後ともよろしくお願いします。

■共同購買

・作業用革手袋 1双：235円 (消費税込み) 発注単位：10ダース

・溶接用革手袋 1双：450円 (消費税込み) 発注単位：5ダース

取り扱い：(株)正栄商会 サンプルご入用の方は、事務局まで申し込み。

・防じんマスク

取り扱い：富士見興業(株)

防じんマスクの着用の徹底を溶接作業とグラインダー作業においては防じんマスクの着用を作業員に対し、徹底して下さい。

「じん肺」は長期間 (10年以上) かかって発症します。一度「じん肺」になると回復することはなく、じん肺作業を離れてもその症状が進行することがあるといわれています。

・認定工場名表示板

注文は、事務局まで

・バンドソー：形鋼専用ブレード

品名：プロテクター (株)アマダカッティング

サンプル2本を無償で提供します。

事務局までお申し込みを。価格は、通常品より約20%高いですが、寿命が約1.3~1.5倍になり、経費節減になります。どのメーカーの機種にも装着可能です。

・全構協：生命共済

取り扱い：大同生命保険(株)

組合員の福利厚生と企業の安定のために掛金は、団体料率適用のため、割安。最近、従業員の通勤途上の交通事故が増えています。これにも保険金が支払われます。

・全構協：オートリース

資料請求は事務局、または全国鉄構工業協会のホームページまで

<教育・技術委員会>

■性能評価 (工場認定)

平成17年度・後期認定

Hグレード：1社 (昇格 (株)矢嶋)

Rグレード：1社 (新規 (株)三侑 鉄工)

平成18年度・前期認定

Hグレード：2社 (叶産業、川岸工業第3、5)

Mグレード：3社 (前田製作所、吉岡工業、日本鉄構建設工業)

Rグレード：4社 (三進建鉄、坂爪建鉄工業、島崎工業、林鉄工)

■鉄骨製作管理技術者 講習会

平成18年9月30日(土)東京八重洲ホール

受講者1級：106名、2級：89名

■固形エンドタブ技量検定試験の実施

3年目の更新試験と新規試験

平成19年2~3月に実施

組合員には案内済み

■日本建築学会 J A S S 6 鉄骨工事

鉄骨工事技術指針 (工場製作、工事現場施工) 鉄骨精度測定指針改定講習会：平成19年2月14日

関東支部主催講習会 予定：平成19年3月17日(土)

<Mグレード部会>

■神奈川県M部会との交流会

平成18年6月21日(水)

飯田製作所の工場見学と交流

■工場見学会

平成18年11月27日(月)

松田鋼業 所沢工場

関東支部M部会との交流会

■全国Mグレード部会連絡協議会設立

設立総会：平成18年2月21日(火)

第1回総会：平成18年9月16日(土)

<R・Jグレード部会>

■全国R・J部会連絡会

・総会：平成18年4月14日(金)

新大阪ワシントンホテル

・役員会：平成18年9月28日

京都府中小企業会館

■4団体打合せ

東京都への陳情について

平成18年7月11日(火)

鉄工建設業協同組合

東京足立鉄骨工業会

鉄工団体連絡協議会

東京都への請願 (4団体)

平成18年12月27日受理

<耐震補強対策委員会>

平成18年4月21日(金)

関東支部・交流

平成18年度耐震補強工事の状況

及び現場溶接工事について

<東構塾>

副理事長の講話

第6回 (平成18年2月)：飯田歳樹

第7回 (平成18年4月)：松田清明

第9回 (平成18年8月)：武田忠義

第10回 (平成18年11月)：森 明

理事役員会報告



◆1月理事会◆

□1月23日、於・ヒルトン東京□

Mグレード部会から2月開催予定の全国Mグレード部会連絡協議会設立総会について「14日に事前幹事会を開き、会則・事業計画・予算などと進行、出席者の役割分担など最終確認する予定」(池田会長)と報告。

R・Jグレード部会からは第3回全国R・Jグレード部会連絡会通常総会を4月に大阪で開催予定、とした。

この他、若手経営・技術者の育成を主目的とした「東構塾」の今後の日程などを取り決めた。引き続き、場所を移して賀詞交歓会を開催した。池田理事長は「全構協全国大会で決議した重点4項目の実行を今年の組合方針としたい」とあいさつ。

◆2月理事会◆

□2月21日、於・組合会議室□

池田理事長は「経営セミナーに足を運んだが、石油価格が中国などの大量消費で一気に上昇していると聞いた。われわれの生活環境や仕事も世界的な動きに大きく左右される時代を迎えている。グローバルな動向、情報に対し留意が必要」とあいさつ。

当日は、午後から開催される全国Mグレード部会連絡協議会の設立総会について担当役割など最終確認。また、鉄骨市況について「年明けと

同時に受注単価が軟化。見積り依頼、受注量も落ち込んでいる」との見方が多く、「価格、量両面でやや苦戦」という意見が大半を占めた。

◆3月理事会◆

□3月16日、於・組合会議室□

池田理事長は人材育成の重要性を強調した後、「全国各県の情報発信地となるよう活発な活動をしていきたい」と述べ、「東構塾」や地区会開催など組合活動の拡充を呼びかけた。

全国Mグレード部会連絡協議会の第一回総会について協議、入会申請の再配布など会員拡大に向けた活動を強化することにした。また、中央鋼材の組合加入を承認した。理事会前のMグレード部会では輸送費のアップのほか、亜鉛めっきや高力ボルト等の相次ぐ値上がりで、「圧縮されたままの加工費が受注に反映されないままにあり、状況は一段と厳しい」との意見が大勢をしめた。

◆4月理事会◆

□4月18日、於・組合会議室□

組合主催の超音波探傷(U T)技術者受験講習の実施を協議、次回理事会で開催内容を詰めることに。

U Tレベル1、レベル2など希望する資格と人数など組合員にアンケート調査された結果をもとに組合員にとって受講メリットのある、さらに効率的な運営法などを技術・教育委員長森明副理事長(日本鉄構建設工業会長)が中心となって詰めていくことになった。

◆5月理事会◆

□5月16日、於・ロッテプラザ□

東京都庁に耐震補強工事のほか、鋼構造物の発注工事に際して地元ファブの優先起用を求めて、要望する



ことを決めた。要望は、適正なグレード指定だけでなく、都発注の鋼構造物工事に於て地元の専門工業者の育成という観点から優先起用を求めるもので、東京足立鉄骨工業会など他の団体にも呼びかけ、「賛同を得られれば共同で要望活動したい」(飯田歳樹副理事長)の考えを示した。具体的な方法については今後、関係者間で内容を詰めることになる。

また、次回理事会(6月21日開催)後に、都内で千葉組合との交流会を開くことにした。

◆6月理事会◆

□6月21日、於・組合会議室□

組合運営の拡充などを目的に賛助会員の加入推進を決め、理事役員が中心になって推薦活動に取り組むことになった。池田理事長は「組合活動の事業計画の円滑遂行と運営の拡充などから地区会の開催と賛助会員の会員増を目指したい」と提案。その結果、賛助会員増は、役員理事が中心になって推薦活動に取り組み、「少なくとも新規で2社以上の獲得を目指す」ことを決定した。また、「賛助会員にとって加入メリットのあるような活動をすべき」との意見もあり、今後、方法論を検討していくことになった。さらに継続審議となっている東京都庁への4団体共同陳情についても協議した。

◆7月理事会◆

□7月20日、於・組合会議室□

継続審議となっている賛助会員増強の方法論について協議。他県組合での賛助会や協力会方式の事例などの調査の必要性のほか、地区会内での賛助会員登録制度やバザール開催など賛助会員にとって加入メリットのある活動を推進していくことにした。このほか、全国Mグレード部会連絡協議会、山梨組合との交流会などを報告。また、各社の現状報告では「今年度の耐震補強工事は低調だが、来年度計画では大量の工事が発注予定にある」や「大型物件の厚板納期が1カ月順延となっている。プレスコラムの納期も厳しくなっており、警戒が必要」の意見が相次いだ。

◆9月理事会◆

□9月21日、於・組合会議室□

来年2月の「第3回後継経営者(幹部)研修」の受講候補者は、青年経営者委員会と協議、「工作しやすい鉄骨設計講習会」は組合技術委員会の森明委員長長の参加を決めた。

「東構塾」は開校期間である2年を経過し、理事からは「このまま終わらせるのも惜しい。近隣県のファ

ブも交えた活動など新たな展開も考えたい」との意見もあり、今後の運営について古藤凱生塾長と協議することに。理事会終了後に全構協を表敬訪問し、出迎えた堀三郎総務部長と井原潔課長と意見を交換した。

◆10月理事会◆

□10月24日、於・組合会議室□

組合設立20周年記念行事について審議。その結果、来年1月開催の賀詞交歓会との併催行事として行うことを決めた。33年前に東京鉄構工業会として設立し、協同組合組織となつてから20年を経過する。

審議の結果、1月23日に開催する賀詞交歓会開催前に記念行事を行い、組合発行の「レポート東構協」を設立記念特集とすることにした。

◆11月理事会◆

□11月29日、於・組合会議室□

固形エンドタブ溶接技能者技量検定試験の更新試験を来春に実施することに。同試験は、2年前に組合独自で実施、来年は更新期を迎えるため、春をメドに飯田製作所、日東鉄工羽生工場、松田鋼業所沢工場など

を試験会場に、実技試験を行うことにした。新規申請も受け付ける。

また、25度レ形開先及び工作しやすい鉄骨設計の講習会も来年実施を決めた。21日開催の関東支部会報告に関連して、重要案件は事前提案のうえで採択すべき、とする意見が大半を占め、支部に上程することに。

◆12月理事会◆

□12月21日、組合会議室□

池田理事長は、組合設立20周年記念祝賀会について「大勢の組合員が出席するように理事役員が積極的に声をかけてほしい。ぜひ成功裏に終わらせたい」と協力を求めた。

理事会開催前に継続審議の賛助会員の増強策について協議。組合賛助会員代表として富士見興業の参加を得て、メリットのある協力会組織の新設を要請した。協議の結果、現在入会している賛助会員と調整を図り、同時に事務局と会則を作成、来年度から「協力会」をスタートさせることを決めた。基本方針として新規の賛助会員が入会しやすい魅力ある組織を目指し、活動を活性化していく。

利益体質の上がる ビジョン創生を 第20回通常総会を開く

■5月16日、墨田区のロッテプラザで第20回通常総会を開催した。総会では、基本方針に地区会の積極的な開催、組合員の認定取得や上位グレード取得のバックアップ、共済事業や教育等の事業への組合員の積極的な参加等を盛り込んだ平成18年度事業計画など全議案を満場の拍手で可決した。

総会後には研修行事として、ソウマ労務管理事務所の相馬誠一所長が、「労働審判法とその他の紛争処理」をテーマに講演し、引き続き、全構協第一回全国大会(昨年11月京都開催)のビデオを放映、元請からの一方的な片務契約の改善、採算を無視した「指値」での受注排除など重点4項目を盛り込んだ大会決議文など契約適正化の推進を図った。

池田理事長はあいさつで日産自

動車の経営改善を紹介後、「目標と戦略を立て、コミットメントしていくことは大切。われわれの業界も利益体質の上がるようなビジョンが必要」と強調し、組合活動に協力を求めた。



活発な事業展開を推進 Mグレード部会

神奈川と合同で工場見学

■6月21日、於・飯田製作所■

神奈川県鉄構業協同組合Mグレード部会（会長＝岸部直喜・岸本建設工業社長）と合同で工場見学会を実施。当組合10名、神奈川13名の計23名が参加、江東区の飯田製作所の工場を訪問、交流を深めた。

飯田社長は工場の会議室で工場の規模やレイアウト、生産能力、同社の特徴でもある耐震補強製作工事の対応などを説明。とくに耐震補強工事で飯田社長は「民間を含め、加工枚数は月200～300枚を製作している。トン数では100トンを下回る程度」と現状を述べた。工場では、同社が特許を取得した「IS耐震」の第一号受注物件が製作中で、参加者は真剣にカメラ撮影やメモをとる姿が目立った。見学後には再び会議室で、周



辺の環境対策や人材確保、耐震補強におけるH形鋼のカバープレート設置やスチールタブ使用などの要求など活発な質疑を交わした。

山梨・神奈川らと3県合同交流会

■9月26日、於・甲斐市の「湯めみの丘」■

山梨県鉄構協会及び神奈川県鉄構業協同組合のMグレード部会と合同会議を開催。当組合8名、山梨11名、神奈川3名が参加、交流や情報交換などを通じてMグレードの仲間意識の高揚や社会的地位の向上などを図ることを確認した。

池谷会長が、「設立総会以降、全国的に入会を呼びかけているが、少なくとも関東ブロックが結束してまとまるようになってほしい」とあいさつ。同時に組合内での部会設立が、全国拡大に発展する重要なカギになるとの認識を示した。引き続き①耐震補強工事②山積み調整③鉄骨製作工場の性能評価の3議題を中心に活



発に意見を交換した。

他県ファブも参加し工場見学

■11月27日、於・松田鋼業所沢工場（埼玉県所沢市下安松）■

研修事業の一環として松田鋼業所沢工場を訪問。年2回のペースで実施している工場見学に今回は栃木や千葉、山梨など各県代表者も出席、計20名が交流を深めた。池谷会長は席上、隣県ファブとの交流会開催のメリットを強調し、今後は他県ファブへの工場見学なども視野に事業活動の拡大を目指す考えを示した。

松田鋼業の松田社長が会社の沿革などを説明、同社の野沢工場長が工場のレイアウトや特徴など概要を紹介し、参加者はH形鋼、コラムなど一次加工ライン、溶接加工や塗装、CAD・CAMルームなど工場内を見学した。見学後、会議室で海外ファブ問題、全国Mグレード部会の提言や意見提出の場、関東Hグレード協議会との交流会などを協議。



東構塾と合同でセイケイを見学

Mグレード部会は6月23日、東構塾（古藤塾長）と合同でコラム製造過程の研修と実務の反映を目的に栃木県のセイケイ佐野工場の見学会を実施。塾生やMグレード会員ら30名が参加した。

工場の会議室でセイケイ佐野営業所の金子智宏所長が工場概要を説明。また、同社管理本部生産管理部の尾野好彦部長が冷間成形角形鋼管「P-コラム」の製造工程、標準寸法や規格、品質特性などを紹介した。参加者は厚板開先やプレス加工、組立溶接、溶接作業や

歪取り矯正などコラムの製造工程を見学した。



東京鉄構工業協同組合20周年の歩み

「東京鉄構工業会」の歩み

現在の東京鉄構工業協同組合の前身である東京鉄構工業会についてはその歩みに詳しく記されており、そこには、「鉄構業者の全国組織を設立するため、まずその母体となるべき東京工業会を作る必要上、昭和47年11月から昭和48年3月初めまで前後8回にわたり、東京の鉄構業者が世話人会、発起人会を開き、東京工業会の創立に努力した」とある。東京鉄構工業会設立準備委員会の会長は全国鉄構工業連合会（昭和48年7月2日発足、当時）の初代会長の桜井利衛氏であり、東京と千葉を合同して昭和48年3月7日に正式に「東京鉄構工業会」として発会式を挙行政した。

その設立趣意書の設立目的には、「最近の鉄骨建築の発展は目覚ましいものがあります。社会の経済機構への貢献度は多大であります。しかしながら、鉄骨企業の基盤体質は弱体であります。経済面は申すに及ばず、全ての面で不安定に悩んでいるのが現状であります。ご承知の通り、都内の一部には親睦程度の組合はありますが、横の連携は皆無の状態にて各業者も手探りで業務を行っている状態です。（中略）鉄骨業界は社会の要請と期待のうちに年毎に増大拡大することは言葉を待ちませんが、われわれ業界には山積する諸問題が重なり、個々の業者だけでは到底解決は不可能と存じます。そこで鉄骨業界の発展と地位向上化のための東京鉄構工業会の名称のもとに権威あ

る鉄構工業会の設立に何卒ご賛同を賜りたく存じ上げます」とある。

以下、主な沿革を記す。

□昭和48年3月7日

「東京鉄構工業会」発会式。

□昭和48年4月23日

東京都中央区銀座2丁目の鉄骨橋梁会館内に事務所開設。

□昭和48年5月25日

第1回臨時総会を開催。74社111名が出席。（会員数108社）

□昭和48年8月28日

「鉄よこせ大会」に東京より130名が参加。

□昭和49年7月29日

昭和48年創刊の組合紙「鉄構だよりNo.4」より全構連会報となる。

□昭和51年7月15日

理事会にて、桜井会長辞任に伴い、新会長に福地文吾氏決定。

□昭和52年5月20日

臨時総会にて、福地会長辞任に伴い新会長に諸橋保一氏を選出。

□昭和53年9月25日

第1回認定式を挙行政

□昭和54年3月28日

千葉鉄骨工業会設立、東京鉄構工業会より分離独立。（会員数66社）

□昭和54年5月9日

諸橋会長辞任申し出により、理事会で小林昭一氏を選出。



東京鉄構工業協同組合設立から現在までの20年の歩み



□昭和61年4月1日

東京都千代田区のホテル国際観光において設立総会（会員数62社）。設立発起人代表あいさつは小林昭一氏。理事長を当日の理事会で代表理事及び副理事長を選任し、初代理事長に小林氏を選出。東京都中央区京橋2丁目に事務所の設置決定。

□昭和61年4月9日

東京鉄構工業協同組合認可

□昭和61年4月17日

東京鉄構工業協同組合の設立登記

□昭和61年4月9日

東京都中小企業団体中央会に加入。

□昭和62年

「東構協だより」発行。

□昭和62年5月7日

東京都中央区の鉄鋼会館において第1回通常総会。（会員数81社）

□昭和62年5月15日

小林昭一理事長の就任登記。

□平成元年

地区ブロック会議（6ブロック制）発足。

□平成3年5月27日

東京都のホテル国際観光において第5回通常総会。（会員数84社）

□平成3年

地区ブロックを4ブロック（東・西・南・北）に再編成。

□平成4年5月26日

第6回通常総会で、新理事長に金

子升一氏を選出。

□平成7年9月20日

緊急経営対策全員協議会を開催。

□平成8年1月18日

第二回緊急経営対策全員協議会を開催。

□平成8年2月24日

Rグレード部会設立。

□平成8年5月22日

東京都中央区の鉄鋼会館において第10回通常総会。(会員数121社)

□平成12年8月5日

性能評価基準説明会

□平成13年5月16日

東京都中央区の鉄鋼会館において第15回通常総会(会員数81社)。新理事長に池田英敏氏を選出。

□平成15年

固形エンドタブ溶接技能者技量検定試験を開始。組合のホームページを立ち上げる。

□平成17年4月23日

「東構塾」開講



□平成17年4月9～7月9日

特別教育及び職長教育を実施。

□平成18年5月16日

東京都墨田区のロッテプラザにおいて第20回通常総会を開催(会員数59社)

東・中合同地区会を開催



■2月4日、中央区「鳥徳」■

組合員20名が参集し、東・中合同地区会を開催。同地区会では「年明けとともに、鉄骨単価の下落傾向が強まっている。見積もり件数も減少、目先平均2カ月と仕事量も減少、先行きも不透明」と厳しい受注環境にあるとの報告が相次いだ。これに対し、交流や情報交換を通じて、各社山積みの平準化など相互協力を図りながら、この苦境の克服を確認した。

池田理事長は「組合員の仲間作りなど地区会は大切な場。東構協の発展にもつながる。努力している人や会社が報われるよう努力していこう」と団結を呼びかけた。

第3回通常総会を開催

全国R・Jグレード部会連絡協議会

■4月14日、新大阪ワシントンホテル■

総会には全国鉄構工業協会の橋本誠会長ら来賓参加のほか、全国47都道府県のうち14都府県組合から関係者約80名が参集。杉本豊会長は「当初、4県でスタートした当連絡会も11県に拡大。今後も頑張っていきたい」とあいさつ。任期満了に伴う役員改選では、新会長に二見法和氏(里見田工業社長)、新副会長に中川内伸吉氏らを選出した。

総会後には、丸岡義臣技術研究所の丸岡義臣所長が「R・Jグレードに期待するもの」をテーマに講演し、引き続き、「エンドユーザー(主として中小建物建築主)とファブ業界の接点～安全と安心を目指して～」を主題に関係者によるパネルディスカッションが行

われた。

鉄骨需要や市況などで意見交換 千葉工業会と交流会

■7月20日、鉄鋼会館■

千葉県鉄骨工業会(理事長=古橋久・古橋鉄工所社長)と交流会を開き、首都圏の鉄骨需要や市況、組合運営などをテーマに活発な意見交換を行った。交流会には東京組合14名、千葉組合9名の計23名が参加した。

交流会では池田、古橋両理事長の「互いに見習い、学ぶ点は多い」をベースに首都圏の鉄骨需要や市況について各社が現状を報告した。



組合設立20周年座談会 -さらなる飛躍を 目指して-

出席者

相談役 金子 升一
(那須ストラクチャー工業会長)
理事長 池田 英敏
(池田鉄工社長)
副理事長 松田 清明
(松田鋼業社長)
副理事長 武田 忠義
(叶産業取締役相談役)

副理事長 池谷 春夫
(日東鉄工取締役本部長)
副理事長 森 明
(日本鉄構建設工業会長)
副理事長 飯田 歳樹
(飯田製作所社長)
司会 鋼構造出版 大熊 稔
(敬称略)

—まず、「組合活動の現状を踏まえて、さらに事業を推進するポイント」をテーマについて座談して頂きたいと思います。さっそくですが、池田理事長からお願いします。

先駆的な活動みせる「東構協」



池田理事長

池田 組合組織としては現在、理事会の下に経営近代化委員会など全部で6つの事業委員会とM、R Jの2つのグレード部会、そして青年経営者委員会を置いて運営している。また、地域を3ブロックに分け東、中、西の地区会で全ての組合員に業界や組合活動の情報伝達や交流を図っているのが現状だ。

月1回のペースで開催される理事会、そしてMグレード部会や耐震補強委員会などの活動は活発に行っており、極めて順調な展開をみせている。これに比べてやや低調なのが、地区会。地区会が活発に機能することのメリットは計り知れないものがある。本来の組合員の交流の場もあり、組合事業としても意見の吸上げ、あるいは連絡徹底の貴重な場となる。組合員にとって会社相互の山

積み調整、あるいは性能評価工場へのグレードアップ、資格など情報交換や交流を図る貴重な場となるだけに今後も注力していきたい。



金子相談役

が共通した際には、互いに結束しあうことが多い。その意味でH、M、R、Jなどグレードが異なる立場だと、課題そのものがそもそも違い、全体で取り組むとなかなか話がまとまらず、相手の話さえ理解しているか疑わしい。ランク別の集まりであるほうが、交流が活発になるのは自明の理だ。また、H、M、R、Jの各グレードが活発になることは、業界としてヨコ基軸との連携がうまく図れ、業界自体が活性化することになる。東京は、このタテ、ヨコ基軸両方でやっている先駆的な組合といえるだろう。

要するに品質や安全などの問題は別として会社規模や客先、受注物件などの認識がグレードによって見たり、考えたりする目線がまったく違う。これが進むことでグループや共

同受注、山積み調整が円滑に進む、そんな感じがする。

そして、ファブ業界の世代交代が進んでいることも一方である。今は時期的に、世代が切れてしまっていて個々の組合員が馴染みとする相手が変わってしまっているのではないか。そうすると組合活動として顔を知らない場所への参加となり、なかなか足を運びづらくなる。個々の組合員の普段の交流が、組合の事業活動として基本になるだけに、そうした細やかな配慮も必要になる。組合と組合員の距離がバラバラになるようであっては困る。

いずれにしても、M、R Jの全国組織にしても、青年部にしても東京が代表を選出して、ファブ業界に発信してきた。組合としてその誇りを忘れてはならない。

池田 活動の核となる部分の人がしっかりしないと、その活動は停滞する。その意味で、「長」の付く組合の担当役員の責務は大きい。そしてもう一つは、組合が何をやるにしても組合員が自分の問題として認識するかで活性化するかどうかが決まるのではないだろうか。

金子 自分の会社の中身は知られたくないが、他の会社の情報はキャッチしたいというのが、組合員の頭にあるとこれも停滞の要因となる。また、組合員として会費を払っている効果を出すために積極的に活動してくれればいいが、組合の看板さえあればいいという考えも駄目だ。幸いにして、東京の組合員にはそんな連中は少ない。ただ、そうしたことを打開するために、勉強会だけでなく、例えばカラオケや野球、家族旅

行とか、いわゆる「遊び」の部分も大いに必要ではないか。とにかく互いに顔を合わせることが大切だ。



武田副理事長

武田 確かに金子相談役の指摘の通りだと思います。ゴルフや旅行など、いわゆる「遊び」のなか

かで深く相手の人柄や性格を知ることが大切だ。何事も互いに顔を合わせているんな話をするのが基本。そこから学ぶことは多い。そして、われわれの業界は、他人や他社あるいは業界の責任を追及することが多いが、まず自分自身、自分の会社そして業界の姿勢や基盤を固めることが先決ではないか。



松田副理事長

松田 組合活動としての意義は、本来、組合に加入して参加した企業が、していない企業と

差別化して有利に展開することにあると思う。

その大きな柱となっていたのが、性能評価、いわゆる工場の認定取得で、これは紛れもない事実だと考える。認定さえ、取得すれば参加したくないことはできる限り避けたいという心理も一方であるのではないか。それを繋ぎとめるには、組合に入会して企業経営として経済的に良かったという気持ちを持たせることが必要だ。それを真剣に取り組み、小まめに対応していくのが理事会の役割であり、責任だろう。

また、そのための方策として地区会があり、グレード部会がある。そ

こで交流し、金子相談役の発言通り、遊びを含めてやっていけばかなり活発にやれるのではないかと思う。



池谷副理事長

池谷 東京には、他の鉄骨団体として東京足立鉄骨工業会がある。会社規模として一人親方

とか、R Jクラスの企業が多い団体だが、何かやる時の参加率は非常によい。通常総会にしても、来賓や賛助会員交えて相当な人数が集まり、華やかだ。実際に、仕事の横の繋がりが結束を生んでいると聞く。結局は、自分の会社の経営にプラスになるという意識で参加している。非常に参考になる一例だ。発足してまだ、一年足らずの全国Mグレード連絡協議会だが、その会に加盟することで、例えば月次報告、仲間内の最新情報が豊富に入ってくるような、最終的に自分の会社にとってプラスになる方向性でメリット性を引き出したい。



飯田副理事長

飯田 組合組織のなかですべての面でオープンにできるか、またどのようにすれば腹を割ってぶちまけることができるか。

学生時代の親友といわれる付き合いができるかだと思う。組合活動の組織のなかで可能性を見出せるかを模索してみると各社各様のため、纏めづらい。しかし、現在行われている2、3社の少数の纏まりに核を作って、それを融合させ、グループの結集を図るのも一案かと思う。組合員すべてを一夜にして纏めようとし

ても不可能だと思う。年次計画を立てて成果を確認しながら計画調整をし、三カ年で半分の達成という目標値を立てて実行する。また、経営安定では物件の情報公開、山崩しのための良質パートナー企業の選択を図る。

——組合員のメリットが、各企業や立場で異なることから、非常に難しい問題でもあるが。

先鞭を切った「アクション」を

松田 確かにそうだが、例えばMグレードを対象に実施している工場見学もH・R Jグレードでやって組合全体に拡大してもいいし、東京以外に広めて、実施してもいいのでは。仕事の繋がり、やり取りのために他社の工場をみることは極めて重要だ。

その良し悪しは別にして昔、仲間の工場をパトロールしていた。今から思えば、あれが地区会の活発化に多いに役立っていたと思う。

今は工場見学しても、相手の会社に遠慮してかどうか歯に衣させない批評がほとんどなくて、それでは全体的な向上に結びついていない。それが、なくなって横の繋がりも疎遠になっていったのではないか。

池田 確かに、工場見学は会社の品質、納期、組織も判断でき、その信頼、安心感を得られるきっかけになる。あるいは、工場認定のグレード昇格を狙う会社にとっては大きな参考になる。

金子 松田副理事長が言ったことだが、やはり工場見学後に他の人にいわれると効き目がある。社内の問題点として有効に使うべき。

池谷 技術の伝承と後継者育成を狙いとする「東構塾」の存在意義も

大きい。若手の次期経営者および技能・技術者が仲間内ですでに仕事のやりとりの場としても活用しており、技術や経営両面で組合員に大きなプラスになっている。

松田 鉄骨分野における技術的な事からは、全国鉄構工業連合会当時から重点的に対応してきた成果を受けて、われわれもかなりレベルアップしてきている。ある程度、成熟してきたのではないか。それよりは、それぞれが経済的に有利になるような方策を見出すことが最優先課題だと思う。

東京は、ご承知の通り鉄骨需要として圧倒的に量が多く、いわば全国的に草刈り場となっている。実際に東京の組合員だけで賄える量でなく、しかも市場経済的に解放することが当然と思っている。その意味で東京は閉鎖的ではない。

本当は、全国Mグレード部会連絡協議会などでネットワークを形成して、他県ファブが東京の仕事を受注したものを回していただければ一番いいのだけど（笑い）。いずれにせよ、基本的に受注単価において遠方のファブと競争すれば、土地や人件費などがそもそも勝負にならない。大都市圏にあるファブ特有の大きな悩みでもある。

飯田 東京は鉄骨物件の宝庫。ブローカーとの接点を断ち切ることが先決問題で組合員同志の物件紹介を軸に安定した企業安定を図る。

人件費、設備費イコール固定費の問題を解決するために、また安心するためにゼネコン指し値での受注繰り返しのツケから抜け出せず、いいなり業種からも脱皮できない。建築

のフレーム製作者としての誇りを持ち、健全な企業基盤を築き、十分な資金を蓄え、良質な製作物をクライアントに提供する義務があることを再度認識することが組合活動の最重要課題ではないか。



森 副理事長

森 鉄骨の加工、施工技術は過去の数々の問題を克服して、確かに成熟期に至っている。われわれファブ側の努力はもとより、行政、学会も同じく進歩してきた。この中であって学術的見地での進歩的理論が必ずしも経済的發展に照らして有意義なものだけではないことが今日目に付く。冶金学的な思考要素を溶接工作や施工に、物理学的な思考要素をボルト施工にと理論展開は当然のこととは言え発展を続け、新技術としてファブの工作、施工に多くの改革を求められてきたが、広く設計品質や素材品質の改革にも向けられるべきであり、この主張ができるのは組合活動こそであり、当東構協がその先鞭をきって行動を起こしたい。

——最後に将来ビジョンをお願いします。

業界の「将来像」を見据えて

池田 業界にシンクタンクの必要性が迫られているのではないか。これからのファブ業界の将来展望、方向性をみつけることが生き残るための指針と目標であると考えている。毎年、経済も景気も変化する。国際情勢も大きく変化し、グローバル化が進んでいる。その意味で最新の情

報が今後の企業の行き方を左右するといっても過言ではない。

技術の伝承と後継者問題がこれからのわれわれの課題であると思うし、東構塾を開講したが、これをしっかり運営していきたい。

金子 われわれの客先も世代交代やリストラなどが進んでいる。われわれがそのなかで、専門業者としてどう対応するかで将来の業界像が決まる。

鉄骨の現場では、かつては躯体から設備、左官まで全部知っている知識豊かな管理（監理）者が多かった。それが、合理化の名のもとにどんどん失われ、技術知識はわれわれ専門業者に下りてきているのが現状。それにどう対峙するかで、われわれファブ業界は大きく変わるといふことだ。また、早く近代的な契約社会にならないと駄目だ。もっとしっかりしなければならない。

飯田 「仕事がないので、回してくれ」と率直に話すことのできる組合を目指そう。仕事のやりとりについて、できれば組合員全員参加で即効性のある提案をしていこう。

松田 全国鉄構工業協会の組織の問題として支部連絡会議を通じてでないと意見や提言を上程できない。それは困る。もっと柔軟性があるいいのではないか。いずれにせよ、組合に加入してメリットを感じるような方策をとって、それでも不参加は仕方ないが、その最善の努力を尽くすことが理事役員の使命だ。また、真面目に取り組んでいる組合員から落伍者を出さないようにバックアップするのも大きな役割だと考える。頑張って努力したい。

賛助会員一覧

会社名	〒	本社・所在地 東京都内営業所所在地	代表者 担当者	役職名	T E L	F A X	取扱主商品
大日本塗料(株) 東京営業所	144-0052	東京都大田区蒲田5-13-23 蒲田シティビル	中山 卓巳	所 長	03-5710-4501	03-5710-4520	塗料全般
			長尾 英治				
大同生命保険(株)	104-0028	中央区八重洲2-1-1 ヤンマー東京ビル	日詰 裕	営業推進部長	03-3241-4311	03-3278-9676	生命共済
ダイニッカ(株)東京支店	104-0032	東京都中央八丁堀1-9-5	有末 隆雄	支 店 長	03-3552-3151	03-3552-0672	全構協指定塗料 錆止め塗料
			高岡 鉄也	営業担当	03-3552-3163	03-3552-3162	
富士見興業(株)	166-0003	東京都杉並区高円寺1-27-11	名取 孝人	代表取締役社長	03-3314-1430	03-3314-5818	工業用ガス、溶接材料 機械、工具
			蒲生 紘一郎				
(株)正栄商会	036-0071	東京都江東区亀戸6-55-20	岡田 勝	代表取締役	03-3682-7821	03-3685-6422	ガウジング棒、溶接面 及びガラス、フラックス スタブ、革手袋
			小林 伸好	課 長			
(株)アマダカutting	259-1116	神奈川県伊勢原市石田200	上田 信元	代表取締役	0463-96-3351	0463-96-0109	帯鋸盤、金属工作機材 の製造・販売、修理点 検、鋸刃、消耗品
			三宮 一郎	係 長			
(株)ファーストクルー	111-0053	台東区浅草橋5-24-6 NBK浅草橋ビル6F	鈴木 康	代表取締役	03-5322-3544	03-5822-3554	鉄骨CAD/CAM "FAST"
			辻川 高士	課長代理			

編集後記

今号は、当組合設立20年（東京鉄構工業会創立33年）の記念号となった。これを機に、会員数の変遷と会員企業の存続を見ると次のようになり、極めて浮沈の激しい業界であったことが分かる。

工業会創立（千葉と合同）：昭和48年3月 会員数：108社（発起人：32社）、昭和48年度末：166社、49年度末：149社、50年度末：126社、51年度末：108社、52年度末：90社、昭和54年3月28日 千葉県工業会創立（分離独立、この時の、東京工業会の会員数：66社）、その後、56年度末：65社、58年度末：67社、組合設立（昭和61年3月）時の会員数は、62社であった。

その後、平成1年度末：73社、平成2年度末：84社、平成4年度

末：121社、平成6年度末：130社、平成8年度末：115社、平成10年度末：105社、平成12年度末：81社、平成17年度末：59社となった。

会員数の変遷は、昭和47年以降の建築ブームにより、鉄骨需要量の増加（昭和47年880万トン、49年1080万トン）と共に会員数が増加したが、48年末からの第1次オイルショックとその後の不況（49年680万トンに激減）により会員数が減少した。この時、いわゆる老舗と言われる会社が倒産、廃業に追い込まれた。

その後、バブルによる鉄骨需要量の増加とともに会員数が増加し、平成6年度末に130社（過去最多）となったが、バブル崩壊とともに会員数が減少し現在（平成18年11月）60社となり、組合設立時とほぼ同じとなった。

一方、会員企業でみると、工業

会設立時の発起人32社のうち現在会社として存続しているのは5社（うち1社は、鉄骨撤退）、また、組合設立時の62社のうち現在会員として残っているのは20社である。

一方、今年の鉄骨業界は、大きく変貌すると思われる。大手メーカーで構成される鉄骨団体も、昨年末に元会長会社が相次いで退会し、今年も大手の何社かの退会が噂されている。われわれの業界で重要な位置を占めてきた団体だけにその後の影響が心配される。もう一つは、海外鉄骨であり、発注元であるGC、設計事務所の対応の変化、海外製作をするファブの動向により、その影響を大きく受けるようになる。波乱含みの形相をみせているが、頑張っ苦境をチャンスに変えるよう皆でともに乗り切っていこう。

（案山子）